

# 2024年度 夏季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書



Glideでの様子



foodbankでの様子



ホームステイ先での夕食

## 1. 参加目的

異文化交流に興味があり、他の国籍の方と関わりを持ち、英語でコミュニケーションを取ってみたいと思い参加を決めました。語学学校や大学に通うより現地の方とより向き合えるのではないかとボランティアプログラムにしました。アメリカに低所得のイメージがあまりなかったためサンフランシスコが直面する問題を学び、自分の視野を広げたいと考えました。普通に日本で大学生として暮らしていたら、見えていないこと、知ることができないことを自分の目で確かめてみたいと思いました。今まで自分が勉強してきた英語の力試しと、まだまだ苦手意識が強かったリスニング能力とスピーキング能力を現地のコミュニケーションで伸ばしたいという気持ちもありました。

## 2. ボランティア実習内容について

グライドでのランチ提供、グライドでのランチボックス作り、フードバンクでの食材配給、学童での子どもとの交流のボランティアに参加しました。グライドというのは無償で昼食を提供する教会の食堂のようなものです。たくさんの方が列をなして昼食を食べにくるので、絶えずプレートに料理を盛り付けるのは大変でした。現地に住んでいる人もボランティアとして参加していたことから、日本よりボランティアというのが生活の近くにあるように感じました子どもたちのもとへ配られるというランチボックスの作成や、フードバンクでの食材梱包は、直接人と関わらないため、やりがいに欠けるなど最初は感じてしまいましたが、そのような仕事こそ率先してやる人が必要となる大事な仕事で大事なボランティアであると感じました。フードバンクでの食材配給や学童は人とのコミュニケーションをとる楽しさを感じました。

## 3. プログラムを通して学んだこと

サンフランシスコには様々な国籍の方や様々なルーツを持った方がいて多様性というものを肌で感じられました。街を歩く人はもちろんグライドやフードバンクにくる人、学童に通う子どもたちを見ていて感じました。また、人と関わることの素敵さも学びました。ボランティアとしてはフードバンクに来た人が目を見てありがとうと言ってくれたときに大きなやりがいを感じました。それから、食材を渡すだけの一瞬であっても人との関わりを大事にできるようになるべく一人一人の目を見て笑顔で接することを心掛けました。日本とは違い、道を歩いていたら、「日本から来たの?」や「その服いいね」などフランクに声をかけてもらえることが多く、買い物のときに店員さんと話すのも楽しく、アメリカの国民性ともいえる人と人との関わりが素敵だと感じました。

## 4. ボランティアプログラムを終えての感想

日本で大学生として普通に暮らしていたら、関わらなかったような他の国籍やルーツをもった方、低所得者と呼ばれる方たちと関わることができたことがよかったです。今まで日本しか見えていなかったけれど、アメリカの文化や国民性に触れて自分の視野が広がったように感じます。アメリカの方たちが日本に行ってみたいと言ってくれたり、日本語は美しい言語だと言ってくれたり、日本を褒めてもらえることが多く、嬉しく思いました。それだけ日本の注目度が世界で高まっているのだと感じます。どのような形であれ、何か工夫して日本の良さを海外に広められるような活動に興味を持ちました。自分の英語力もまだまだであることに気づき、実際に現地の方とコミュニケーションをとり、現地で生活したことがこれからの英語学習のモチベーションに繋がりました。